
みゃーこの読書録

宮木 和樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みゃーこの読書録

【Nコード】

N0841T

【作者名】

宮木 和樹

【あらすじ】

世の中に有る様々な本。多種多様な作品達を読み終えた時の、感想の群れです。あくまで一個人の感想に過ぎませんので、悪しからず。適当にサラリと読み流していただけると幸いです。

5月7日土曜日『よなかの散歩』

『よなかの散歩』 角田光代

本日読了したエッセイ本です。元々は、『オレンジページ』に連載されていたものを出版されたものらしいです。

あらずじ

雑誌『オレンジページ』で連載中の人気エッセイが、待望の単行本化！

大好きな食べ物や料理の話、新しい家族への愛、旅行への熱い思い…… などなど。

日々のことを、やわらかで、軽やかな視点で見つめたエッセイ集。
(Amazon.co.jp『内容紹介』より)

所々で共感出来る部分があったり、「え!？」とか「考え方が違うー」とか思う所も有ったり。

俺自身、今までエッセイというのを国語の教科書に載っているくらいしか読んだことがなかったので、これを購入するには少し勇気が必要だったんですが、なんて事は無い。むしろさくさく進みます。下手すりゃこの人、小説よりもエッセイのほうが面白いんじゃないかってくらい。まあ、角田さんの小説をまだあんまり読んでないから何とも言えませんけども。

読み終わるとね、つくづく思いますよ。「ああ、この人、ホントに『食べる事』が好きなんだな……」って。思うっていうより、実感する。だって、所々に食べ物ネタが挟まっているのですよ。違う話題から入っても、結局行き着く先は食べ物、みたいな。

めっちゃ分かるんですけどね！？

俺は角田さんを本以外の所から知った訳なのですが、「こんなに面白い人だったのか！！」と思い知らされる一冊でした。

この読書日記は6月11日にあらずじ紹介を書き加えました。

6月10日金曜日『折れた竜骨』

『折れた竜骨』 米澤穂信

実際には9日の夜に読了していたのですが、理解が追いついていなかった……というより、頭が理解を拒んだ所が有ったので改めて最終章だけ読んで、読了としました。

米澤先生定番のミステリーなのですが、彼にしては珍しくファンタジー色が強いです。

魔法が結構な数出て来ます。特殊な読みをするルビが振ってある言葉が多いです。

あらすじ

ロンドンから出帆し、波高き北海を三日も進んだあたりに浮かぶソロン諸島。その領主を父に持つアミーナはある日、放浪の旅を続ける騎士ファルク・フィッツジョンと、その従士の少年ニコラに出会う。ファルクはアミーナの父に、御身は恐るべき魔術の使い手である暗殺騎士に命を狙われている、と告げた……。

自然の要塞であったはずの島で暗殺騎士の魔術に斃れた父、「走狗^{ミイオン}」候補の八人の容疑者、いずれ劣らぬ怪しげな傭兵たち、沈められた封印の鐘、鍵のかかった塔上の牢から忽然と消えた不死の青年——そして、甦った「呪われたデーン人」の襲来はいつ？ 魔術や呪いが跋扈する世界の中で、「推理」の力は果たして真相に辿り着くことができるのか？

(Amazon.co.jp『内容紹介』より)

これ、最後がかなり複雑だけどすごく感動します。目頭が熱くなり

ます。犯人に驚きますよ、ホントに。

米澤先生はそういうことをする人なんです。

彼のミステリーは他のものもとても面白いです。有名なのだと、少し前に映画化された『インシテミル』かな。でも実は、私まだあれ読みかけなんです……。

『氷菓』もドラマ化か映画化すればいいのに。

なかなか厚みが有って、登場人物が多くて、中が二段になって、最初は「うつ……」とか思ってしまったが、気づくとかかなり進んでるような本でした。

この読書日記は6月11日に若干改稿しました。

11月21日月曜日『彼女のこんだて帖』

『彼女のこんだて帖』 角田光代

長く付き合った男と別れた。だから私は作る。私だけのために、肉汁たっぷりのラムステーキを！ 仕事で多忙の母親特製のかぼちゃの宝蒸し、特効薬になった驚きのピザ、離婚回避のミートボールシチュウ——舌にも胃袋にも美味しい料理はら幸せを生み、人をつなぐ。レシピつき連作短編小説集。

最近光代さんにはまってる私が、なんとなく学校の図書室で借りてなんとなく読み始めた本です。

全体的に暖かい雰囲気有って、読んでいくのが楽しかったです。本一冊を通して、ひとつシカケがしてあるんですよ。1話の主人公が居て、そこに脇役がもちろん登場するんですけど、2話ではその脇役が主人公になって、2話で脇役として出てきた人が、今度は3話で主人公になる——といった具合に連鎖していった、最終話では1話の主人公が脇役として少し登場するんです。誰かが居て物語が有って、その中に違う誰かが居る。その“違う誰か”にも、もちろん“その人の物語”が有る。それを上手く表現してるなあ、と思いました。

話毎の主人公の葛藤が有って、彼ら彼女らが料理を作る。そして何かを乗り越えて、前へ進む。これを読むと、料理って偉大だなんて思う。私も料理がしたくなった。

何かに躓いても、心の整理をして、新しい気持ちでまた歩き始めるのって、大変だけど、歩き直した後は、きっと綺麗な世界が広がっ

てる。そう思える一冊です。

ちなみにこの本、最後の方に、作中で登場した料理のレシピが載ってるから、実際に作ってみたいと思ってても大丈夫っていう親切さね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0841t/>

みゃーこの読書録

2011年11月21日18時55分発行